Opening up　−新しい年の幕開けに

巻頭言

西　尾　章治郎*

Opening up Osaka University: My New Year Aspiration

Key Words：Openness, Open Education, Open Science, Open Innovation, Open Community

明けましておめでとうございます。皆様とともに輝かしき新年を迎えられることができました。

いま、大学を取り巻く環境は急激に変化しています。たとえば、グローバル化の波は猛烈な勢いで押し寄せてきています。日本は急速な高齢化と人口減少を目前にしています。世界に目を向ければ環境問題、エネルギー問題、民族紛争など、解決を求められている課題が山積しています。このような状況において、知の集大成である大学は、どのような貢献ができるのでしょうか。

この社会からの問いかけに対するひとつの答えは、「Openness」、すなわち「開放性」だと考えます。大学という存在を広く世界に開いていくこと。これこそが、これからの大学において最も重要な視座であり、社会が直面する諸課題を解決し、学問の進展やイノベーションの創出に最大限貢献するための鍵だと思います。そこで、以下の四つの観点から大阪大学を開かれた大学にすることを目指していきます。

Open Education

大学は、社会に有為な優れた人材を育成する空間ですが、社会から隔絶した教育機関であってはなりません。変化の激しい現代社会において柔軟に活躍し得る人材を輩出するためには、社会のなかにある優れた人材育成機能を取り込み、また教育におけるグローバル化を推進することが不可欠です。

Open Science

大学は、卓越した知を生み出す空間ですが、特権的な知の牙城であってはなりません。新たな原理の発見やさらなる研究成果を創造していくためには、最先端の研究成果を広く世界に開示するとともに、大学が学外の「知」とも積極的に協働することが重要です。

Open Innovation

大学は、社会の進歩につながる知や科学技術を生み出してきましたが、いま問われているのは、それらがどのような社会形成につながるのかということです。今後、大学が社会に寄り添った新たな技術革新と社会変革をもたらすためには、大学自らがその使命を自覚し、倫理意識を鍛え、社会との誠実な対話を進めて行くことが求められているのです。

Open Community

そして、こうした理念を実現するためには、何よりも、大学が、多様性に富む人材を擁し活躍の基盤を提供するOpen Communityであることが大前提です。大阪大学は、ダイバーシティの推進を大学運営の根幹に据えます。また、国際労働機関（ILO）が21世紀のILOの目標として提示している「ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」の視点なくして、大阪大学のさらなる発展は望めません。

Opennessの精神に基づいたこれからの大阪大学は、文化、言語、民族、学問分野を超えた様々な形態の知が交流し、ひとつの旋律として奏でられる「知の協奏」、そして、多彩な視点とアイディアが交差することで画期的な知が創出される「知の共創」、こうしたダイナミックな循環を実現し、多くの成果を広く世界に発信していきたいと考えています。

2016年は、第3期中期目標期間と第5期科学技術基本計画が同時に開始される国立大学にとって非常に重要な年でありますが、大阪大学は、その源流である懐徳堂と適塾の学風と精神を継承し、先進性とたゆまぬ挑戦性を基軸に「知の協奏と共創」により世界屈指の研究型総合大学へと進化し続けていく所存です。引き続きご指導、ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

* Shojiro NISHIO
1951年10月生
京都大学大学院工学研究科博士後期課程
数理工学専攻修了（1980年）
現在、大阪大学総長
博士（工学）　データ工学
TEL：06-6879-7000
FAX：06-6879-7006